

平成 23 年度

氷見高校アクションプラン

1 学校教育目標

- ・ 知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる
- ・ 自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる
- ・ 健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる



2 学校の特徴

本校は、昨年度から 5 学科 7 クラスの総合制高校として新たにスタートし、魅力ある学校づくりを目指して、それぞれの学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人一人の能力と適性に応じた自己実現の達成を目的に教育活動を推進しています。

3 年の普通科、商業科の在校生を含め、地元氷見市からの入学者が多く地域との結びつきの強い高校です。また、生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動をはじめ教育活動全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組んでいます。

普通科(1・2・3年 … 4 学級)

ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学への進学を目指しています。2 年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。また、基礎学力の定着と個別面談の徹底により、個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動に取り組んでいます。

専門学科(3年 商業科 … 1 学級)

(1・2年 農業科学科・海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科 … 各 1 学級)

商業科では、簿記会計や情報処理などビジネスの基礎分野を総合的に学び、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得に取り組んでいます。

また、新設学科では、それぞれの目標を踏まえた専門的な学習を実践するとともに、進路実現をサポートするキャリア教育の推進、学科の枠を越えた科目選択が可能な総合選択制など特色ある教育活動を行っています。

3 学校の現状と課題

本校では「文武両道」の校風を大切に、学習と部活動の両立に努めています。部活動では、ハンドボール部や自転車部等の全国的な活躍をはじめ、多くの成果を上げています。一方、学習や進路の面では、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、例えば国公立大学進学を希望する生徒や保護者の要望に応えることが一層求められています。さらに、生活面において社会性や規範意識を醸成するとともに、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、本校では、次の 3 つの観点から学校経営に係る様々な課題に取り組んでいきます。

- (1) 知性の向上(基礎・基本の確実な定着と自主的学習態度の育成)
- (2) 品性の向上(基本的生活習慣の確立と自他尊重の心の育成)
- (3) 信頼される学校づくり(家庭と地域との連携の推進)

平成23年度 氷見高校アクションプラン - 1 -											
重点項目	自己学習力の向上										
重点課題	自主的学習態度の確立と学習意欲の高揚										
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒(H22年度普通科、平日) <table border="1"> <tr> <td>10月調査(定期考査直後)</td> <td>1年 20%</td> <td>2年 7%</td> <td>3年 68%</td> <td>全学年 32%</td> </tr> <tr> <td>11月調査(定期考査直前)</td> <td>36%</td> <td>17%</td> <td>78%</td> <td>44%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 計画的・自主的な家庭学習習慣の定着を図るため、週末課題や小テストの実施により、学力向上に努めている。 	10月調査(定期考査直後)	1年 20%	2年 7%	3年 68%	全学年 32%	11月調査(定期考査直前)	36%	17%	78%	44%
10月調査(定期考査直後)	1年 20%	2年 7%	3年 68%	全学年 32%							
11月調査(定期考査直前)	36%	17%	78%	44%							
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①平日の家庭学習時間2時間以上 60%以上</td> <td>②各学年の課題提出率 70%以上</td> </tr> </table>	①平日の家庭学習時間2時間以上 60%以上	②各学年の課題提出率 70%以上								
①平日の家庭学習時間2時間以上 60%以上	②各学年の課題提出率 70%以上										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が進路指導部、特活部、学年等との連携を密にし、進路統一HRなどを取り入れながら、早期に進路目標を立て、その実現に向けて学習に取り組むよう指導する。 家庭学習習慣の定着を図るため、計画的に週末課題や小テストを実施し、その課題提出率の向上に努める。 										

平成23年度 氷見高校アクションプラン - 2 -					
重点項目	実践的な学習力の向上				
重点課題	自ら学ぶ力を育成する学習活動の推進				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人あたり図書の出借冊数は1.0冊(H22年度)であり、高校生の読書量としては不十分である。 物理・化学の分野では、目に見えない現象に対するイメージ力が不足している。 農業科学科では、農業クラブ活動や「HIMI学」等を通して、各種発表会や競技会、地域交流活動に積極的に参加している。 商業科では、全商検定1級合格者数は延べ97人(H22年度)であった。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①一人当たりの年間図書貸出冊数 2冊以上</td> <td>②実験を伴う授業の年間実施回数(理科) 30回以上</td> </tr> <tr> <td>③各種発表会等延べ参加者数(農業科) 10人以上</td> <td>④全商検定1級延べ合格者数(商業科) 35人以上</td> </tr> </table>	①一人当たりの年間図書貸出冊数 2冊以上	②実験を伴う授業の年間実施回数(理科) 30回以上	③各種発表会等延べ参加者数(農業科) 10人以上	④全商検定1級延べ合格者数(商業科) 35人以上
①一人当たりの年間図書貸出冊数 2冊以上	②実験を伴う授業の年間実施回数(理科) 30回以上				
③各種発表会等延べ参加者数(農業科) 10人以上	④全商検定1級延べ合格者数(商業科) 35人以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ①読書会や教養講座の開催等を通して、読書に興味・関心を持たせる取り組みを工夫するとともに、図書館を利用した各教科の授業を積極的に推進する。 ②実験や観察を通して、自然や現象に実際に触れ、実物を通して科学的な思考力と探究する態度を育成する。 ③各種団体等の発表会や競技会に積極的な参加を促すとともに、放課後や夏期休業中等に特別指導を実施する。 ④生徒各自の得意分野を把握し、3年間を見通した継続的な指導により、資格取得につなげる。 				

平成23年度 氷見高校アクションプラン - 3 -	
重点項目	教科指導力の向上
重点課題	教員による学習指導方法の工夫改善
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員1人当たり年間2回以上を目途に互研授業を実施し、授業の質向上に努めている。 ・朝学習や小テスト等の実施、各種アンケートの実施に伴い、その集計分析業務に多くの時間を要している。
達成目標	①教員1人当たり互研授業の年間実施回数
	②マークシートシステム利用教職員数
	2回以上
	10人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に1回、2学期に1回、互研授業を実施して、指導方法の工夫改善に努める。さらに一般向けの授業公開についても検討する。 ・学習シラバスの作成や教科部会の開催を通して、授業の質向上を図る。なお、正味50分の授業時間確保に向けては、引き続き生徒・教員共に努力する。 ・システム利用のためのマニュアル作成、講習会の開催等を通して、利用者数の増加を図る。 ・定型的なマークシート解答用紙を提示するなど、利用しやすい環境づくりに努め、生徒との面談等の時間確保につなげる。

平成23年度 氷見高校アクションプラン - 4 -															
重点項目	進路支援力の向上														
重点課題	3年間を見通した進路指導の取り組み														
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力・適性を十分把握していない現状があり、進路目標の設定が遅れがちである。(4月進路希望調査の進路未定者：1年61人、2年14人) ・第3学年の進路希望状況(人) <table border="1" data-bbox="402 1364 1390 1460"> <tbody> <tr> <td>普通科</td> <td>大学 122</td> <td>短大 11</td> <td>専門 20</td> <td>就職 1</td> <td>他 5</td> <td>合計 159</td> </tr> <tr> <td>商業科</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>16</td> <td>2</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> ・学習習慣が定着していない傾向があり、学力養成に努める必要がある。 ・進路意識及び学習意欲を高めるための活動や面接の充実が必要である。 	普通科	大学 122	短大 11	専門 20	就職 1	他 5	合計 159	商業科	10	4	8	16	2	40
普通科	大学 122	短大 11	専門 20	就職 1	他 5	合計 159									
商業科	10	4	8	16	2	40									
達成目標	①生徒一人当たり年間面接回数														
	②各学年・学期における進路について考える機会の設定回数														
	4回以上														
	2回以上														
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年の連絡を密にし、「職業人講話」や「研修旅行」、「進路講話」等生徒個々の進路意識を高める活動に取り組む。 ・家庭学習計画表、スタディサポート、校内各種試験、外部模試等の結果を踏まえ、面接指導を充実させる。 ・学力補充の小テスト、課題提出、補習等を計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。 ・進路ノートの活用等を通して、各学年が足並みを揃えた進路研究を進める。 														

平成23年度 氷見高校アクションプラン - 5 -		
重点項目	学校生活の充実と地域の教育力活用	
重点課題	品性を高めあう態度の育成と地域交流活動の実施	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心と感謝の気持ちを育むため、「氷高さわやか運動」や生徒会による早朝挨拶運動(H22年度、年間21日間)を行っている。なお、服装指導は、各学期2回以上、全校集会時に服装検査を実施している。 ・昨年度から開設した1年次の「HIMI学」では、地元市や各種団体等と連携し、自己のあり方や社会との関わりについて意識を高める活動を推進している。 ・地域と連携した活動への参加を積極的に進めており、H21年度268名、H22年度249名の地域交流活動への参加があった。ただし、福祉施設や地域の奉仕活動への自主的参加者は少ない。 	
達成目標	①氷高さわやかディへの年間参加者	②地域交流活動等への年間参加者
	400人以上	250人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「氷高さわやかディ」と称し、毎月1日・15日を基準に、朝の挨拶運動を実施する。(年間13回) ・「氷高さわやかディ」には、年間1回クラス単位(1・2年)で参加する。 ・服装指導は、教職員の共通理解のもとで、違反者の事後指導などを粘り強く行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「HIMI学」では、地域の教育力を活用しながら、専門技術者等による講習等を通して自ら学ぶ力を身に付ける。 ・校内に地域交流活動等の掲示板を設け、活動情報や参加者の感想等を提示し、生徒の意識を高める。また、ボランティア活動推進委員や農業・水産・家庭の各クラブ活動の参加も働きかける。

平成23年度 氷見高校アクションプラン - 6 -		
重点項目	地域・家庭との連携強化	
重点課題	地域や家庭との結びつきを大切にした取り組みの推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校では、農業科学科、海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科の4学科3学級の専門学科が設置され、進路意識の醸成と職業に従事するための心構え等の育成が共通した課題となっている。 ・保護者アンケートでは、学校の教育活動について92%が満足しているとの回答があるものの、PTA活動への参加率は43%と少ない状況である。 	
達成目標	①インターンシップ参加日数	②PTA活動参加率
	3日以上	50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・社会との連携を図り、体験的実践的教育活動を積極的に推進するため、10月下旬に、2年生全専門学科がインターンシップに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌との連携を図り、保護者が参加しやすい活動を工夫する。また、「氷高ほっとメール」の参加を呼びかけ、学校から家庭への情報提供を円滑に行う。

お問合せ先

富山県立氷見高等学校

住所：氷見市幸町 17-1

TEL：0766-74-0335